

黒石野平遺跡

KUROISINODAIRA SITE

—宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2007.12

株式会社 中央住宅産業
盛岡市教育委員会

例 言

1. 本書は、平成19年10月1日から10月5日にかけて実施した黒石野平遺跡の緊急発掘調査（第8次発掘調査：施工主 伊藤堯一、株式会社 中央住宅産業）の報告書である。
2. 本書の執筆編集は、盛岡市遺跡の学び館 鈴木賢治、神原雄一郎が担当した。
3. 遺跡の平面位置と高さは、黒石野平遺跡の平面は公共座標第X系を変換して表示し、高さは標高値で示した。
4. 土層図は堆積の仕方を重視し、線の太さで使い分けた。土層注記は層理ごとに本文であれ、個々の層位について割愛した。なお、層相の観察にあたっては、『新版標準土色帖』（1967 小山正忠・竹原秀雄）を参考にした。
5. 発掘調査の出土遺物・諸記録は盛岡市遺跡の学び館で保管している。
6. 遺跡における遺構記号は、次のとおりである。

遺構：土坑	記号：RD
-------	-------

7. 本書に使用した地図は、国土交通省国土地理院発行の5万分の1「盛岡」である。
8. 発掘調査および室内整理作業には、次の方々の協力をえた。（五十音順、敬称略）
（発掘調査・室内整理作業） 小林勢子・佐藤和子・四戸孝丸・松田昭夫

目 次

例言	2
目次	2
調査検出状況	6
図版目次	
挿図目次	
I. 調査経過	
1. 地質と地形	3
2. 過去の調査	4
3. 調査経過	4
II. 調査内容	
1. 遺構検出状況	8
2. 縄文時代の遺構と遺物	8
3. 竈物包含層より出土した遺物	9
III. 調査のまとめ	11
報告書抄録	15

挿図 目次

第1図 黒石野平遺跡の位置（1：50,000）	3
第2図 黒石野平遺跡・西黒石野遺跡周辺地形図	5
第3図 黒石野平遺跡第7次・8次・9次調査区全体図	6
第4図 黒石野平遺跡第8次・9次調査区全体図	7
第5図 RD014・RD015・RD016・RD017土坑	10
第6図 黒石野平遺跡第8次・9次調査区出土遺物	11

図版 目次

第1図版 第7次・8次・9次発掘調査区全景（空撮）	
第8次発掘調査区全景（南東から）	
第2図版 RD014・RD015・RD016・RD017土坑	
第3図版 第8次・9次調査区遺物包含層土層断面図	
第8次・9次調査区出土遺物	

I. 調査経過

1. 地形と地質

岩手県・秋田県の県境と重なる奥羽山脈と、岩手県の三陸沿岸部と内陸部を分ける北上山地との間には、広大な北上盆地が形成される。市街地北部から北の地域は、北上川南岸に氾濫原は発達せず、丘陵地や扇状地、中位段丘が、東西兩岸に迫っている。黒石野平遺跡を含む上田地区北部では、北上川近くまで火山灰砂台地が迫りだしており、台地上面には、丘陵地からの湧水でいくつもの沢が開析されている。このために台地上は、丘陵尾根の裾から続く舌状の小台地に分かれており、全体として起伏の多い地形となっている。なお、段丘を見下ろす小起伏山地(黒石山 254.8m)には蛇紋岩の露頭が随所に見られ、早池峰構造体と北部北上山地の境界を知ることが出来る地質学上重要な地域でもある。

黒石野平遺跡は、上記した北上川と東岸に発達する丘陵(四十四田丘陵)及び小起伏山地の間に発達する河岸段丘上に立地する。



第1図 黒石野平遺跡の位置 (1 : 50,000)

2. 過去の調査

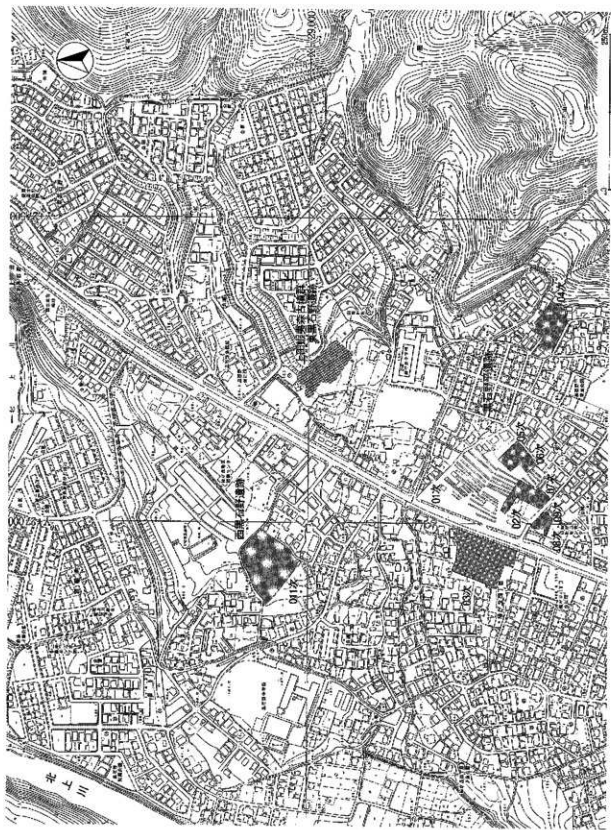
当遺跡はこれまで1～7次調査を実施している。1次・2次調査は、昭和63年から平成元年にわたって岩手県教育委員会によって実施された。3次～7次調査は、平成5年から平成18年にわたって断続的に盛岡市教育委員会によって実施された。

- 1次調査 1次調査では、平安時代の竪穴住居跡や縄文時代の陥し穴状土坑、フラスコ形土坑などを確認されている。(調査面積 1,340㎡)
- 2次調査 2次調査では、1次調査の隣接地で実施されたが、遺構・遺物ともに確認されていない。(調査面積 180㎡)
- 3次調査 3次調査は大型店舗新築にともなう発掘調査で、遺跡推定範囲の西側で実施されている。遺構は、縄文時代のフラスコ形土坑11基、陥し穴状土坑12基などを検出している。ここからは、縄文時代早期～晩期にかけての遺物が出土している。(調査面積 2,080㎡)
- 4次調査 4次調査は宅地造成にともなう発掘調査で、遺跡推定範囲の東側で実施されている。検出された遺構は当調査区でも土坑群が主体となっており、縄文時代のフラスコ形土坑10基、陥し穴状土坑4基などを検出している。また、縄文時代晩期の遺物が若干出土している。(調査面積 1,720㎡)
- 5次調査 5次調査は宅地造成にともなう発掘調査で、検出された遺構は当調査区でも土坑群が主体となっており、縄文時代の陥し穴状土坑4基、時代不明の土坑(柱穴と思われる遺構)2基などを検出している。遺物は、出土していない。(調査面積 1,360㎡)
- 6次調査 6次調査は宅地造成にともなう発掘調査で、遺構・遺物ともに、確認できなかった。(調査面積 684㎡)
- 7次調査 7次調査は宅地造成にともなう発掘調査で、検出された遺構は当調査区でも土坑群が主体となっており、縄文時代の陥し穴状土坑13基などを検出している。また縄文時代の遺物(石礫1点、土器破片2点)が出土している。(調査面積 1,812㎡)

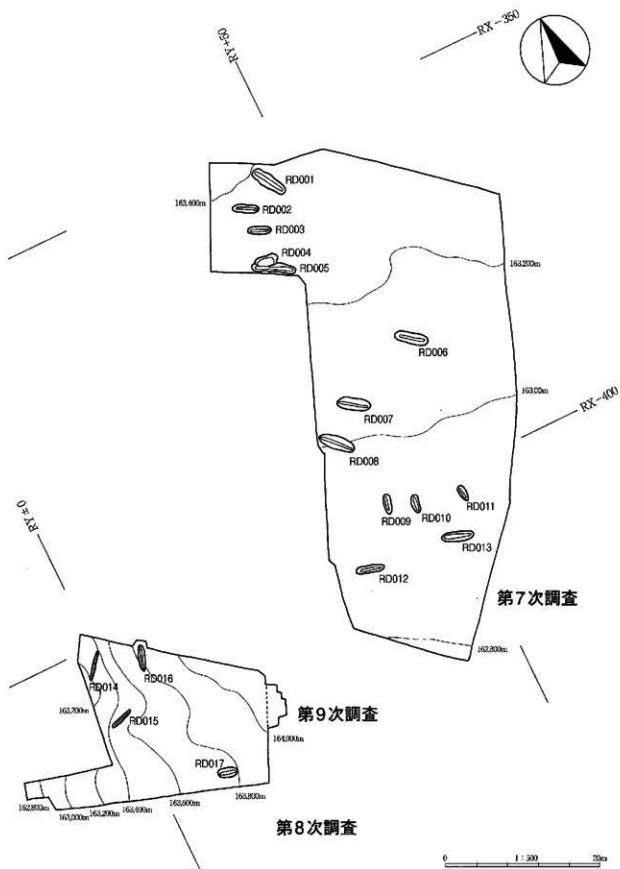
3. 調査経過

試掘調査 平成19年4月、土地所有者より所有地において宅地造成したい旨の事前協議があり、発掘届が提出された。協議を受けて平成19年4月27日に試掘調査を実施した結果、用地内より縄文時代の土坑群が検出され、工事着手前の緊急発掘調査が必要になった。

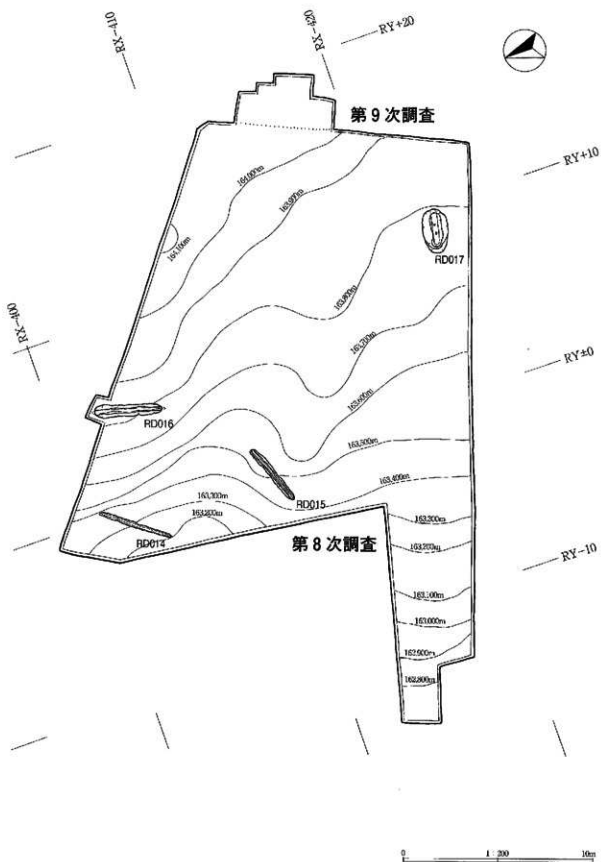
本調査 本調査は平成19年10月1日から10月5日まで、盛岡市教育委員会が実施した。調査範囲は試掘調査で遺構・遺物が検出された380㎡を対象とし(開発予定面積 971㎡)、縄文時代の陥し穴状土坑4基、遺物包含層より縄文時代早期の土器片11点を検出した。



第2図 黒石野平遺跡 西黒石野遺跡 周辺地形図



第3図 黒石野平遺跡 第7次・8次・9次調査区全体図



第4図 黒石野平遺跡 第8次・9次調査区全体図

II. 調査内容

1. 遺構検出状況

黒石野半遠跡第8・9次調査区は、西に向かって緩やかに傾斜する段丘北西斜面部に位置する。調査で確認された層序(写真図版第3図)は上位よりI層(表土。黒褐色・暗褐色土による混合土。層厚0.20m~0.58m)、II層(スコリア粒を含む暗褐色土。層厚約0.10~0.20m)、III層(秋田駒ヶ岳起源の黄褐色火山灰層)の順で確認された。しかし、全体的に削平が著しく、第II層については第8次調査区東辺で部分的に確認されたのみである。

検出遺構は縄文時代の陥し穴状土坑4基である。また、調査区東側際の遺物包含層II層から縄文時代早期の土器片(貝殻文土器)が11点出土した。なお、検出遺構の全てが現代の削平により掘込面を確認することができなかった。

2. 縄文時代の遺構と遺物

RD014土坑 (第5図)

時期 縄文時代中期~晩期。 位置 調査区北西端。 重複関係 なし。 掘込面 削平。

検出面 III層上面。 平面形 溝状。 規模 長軸上端3.98m・下端3.94m、短軸上端0.38m・下端0.09m、検出面からの深さ0.92m。

埋土 自然堆積による。A層からなる。

A層 2層に細分される。暗褐色土主体で、粒~塊状の黄褐色土・スコリア粒を少量含む層である。

壁の状態 ほぼ直壁。 出土遺物 なし。

RD015土坑 (第5図)

時期 縄文時代中期~晩期。 位置 調査区北西側。 重複関係 なし。 掘込面 削平。

検出面 III層上面。 平面形 溝状。 規模 長軸上端3.94m・下端3.92m、短軸上端0.33m・下端0.09m、検出面からの深さ0.74m。

埋土 自然堆積による。層相の違いにより、A層~B層に大別される。

A層 黒褐色土主体で、粒状の褐色土・スコリア粒を多く含む層である。

B層 2層に細分される。暗褐色土主体で、粒~塊状の黄褐色土・スコリア粒を少量含む層である。

壁の状態 ほぼ直壁で中からやや緩やかに立ち上がる。 出土遺物 なし。

RD016土坑（第5図）

時期 縄文時代中期～晩期。 位置 調査区北隅。 重複関係 なし。 掘込面 削平。
検出面 III層上面。 平面形 溝状。 規模 長軸上端3.62m・下端3.89m、短軸上端0.58m・
下端0.16m、検出面からの深さ1.33m。

埋土 自然堆積による。層相の違いにより、A層～B層に大別される。

A層 3層に細分される。黒褐色土主体で、粒状の黄褐色・スコリア粒を少量含む層である。

B層 3層に細分される。暗褐色土主体で、粒～塊状の黄褐色土・スコリア粒を少量含む層である。

壁の状態 ほぼ直壁で中からやや緩やかに立ち上がる。 出土遺物 なし。

RD017土坑（第5図）

時期 縄文時代中期～晩期。 位置 調査区南東隅。 重複関係 なし。 掘込面 削平。
検出面 III層上面。 平面形 棺形。 規模 長軸上端2.38m・下端1.62m、短軸上端1.36m・下
端0.31m、検出面からの深さ1.57m。

埋土 自然堆積による。層相の違いにより、A層～C層に大別される。

A層 3層に細分される。黒褐色土主体で、粒状の暗褐色土・スコリア粒を少量含む層である。

B層 褐色土主体で、塊状とブロック状の黄褐色土・スコリア粒を多く含む層である。

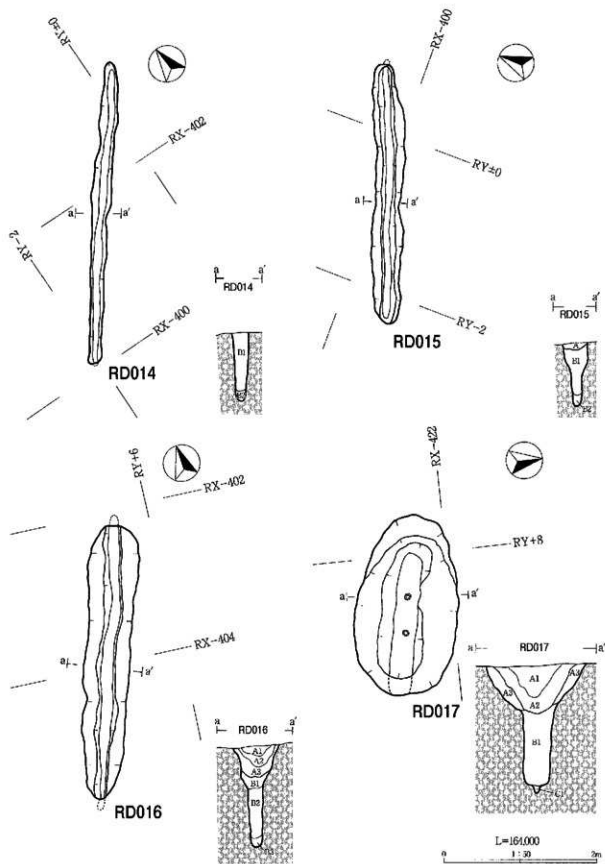
C層 黒色土主体で、塊状の暗褐色土を少量含む層である。

壁の状態 ほぼ直壁で中からやや緩やかに立ち上がる。 出土遺物 なし。

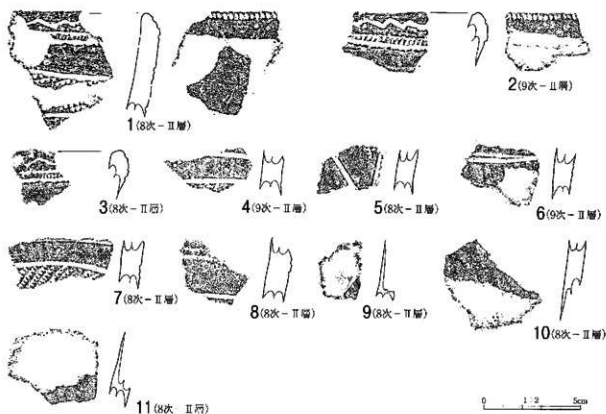
3. 遺物包含層より出土した遺物（第6図 1～11）

遺物は第8次調査区東辺部、第9次調査区との境界付近より集中して出土した。出土した層位は表土直下の暗褐色土で、スコリア粒を含み余體的に硬くしまる層である。

出土した土器は1～11全て同一個体で、縄文時代早期中葉の物見台式または田戸上層式に類似するものである。1～3は口縁部、4～11は体部である。口唇部は外削状となり押引による波状文が施される。口唇部下位には押引による区画文が施され、区画内には無文となる部分と貝殻敷縁文が充填される部分がある。



第5圖 RD014・015・016・017 土坑



第6図 黒石野平遺跡第8次・9次調査区出土遺物

Ⅲ. 調査のまとめ

黒石野平遺跡第8次発掘調査の結果、本調査区は縄文時代の土坑群を主体とする地区であることが確認された。第1次調査区北部には段丘を分断する沢が入り、沢を望む微高地には平安時代の集落も確認されている(1989年 岩手県教育委員会)。今回の調査箇所は第1次調査区より南部に位置し、北に隣接する第7次調査区とともに縄文時代の陥し穴状土坑が集中することから縄文時代における狩猟場であったことが考えられる。また、今回検出された陥し穴状土坑の時代については、遺構から出土遺物が確認されていないため、正確には断定できないが、これまでの市内の発掘調査事例から、縄文時代中期～縄文時代晩期(約5,000年前～約3,000年前)のものと考えられる。

出土した土器は、関東地方での「田」上層式、青森県での「物見台式」、北海道での「中野A式」に近似する土器である。県内でも出土例が増加しているが、前述したように北日本でも土器型式名が乱立した状態にあり、早急な標準資料が必要とされているものである。今回の調査では僅かな出土数であったが盛岡での土器編年を組み立てる上では重要な成果であったといえよう。

【引用文献】

岩手県教育委員会 1989 「黒石野平遺跡」『岩手県内遺跡詳細分布調査報告書1』



第7次・8次・9次
発掘調査区全景
(空撮)



第8・9次発掘調査
区全景(南東から)



RD014土坑
(南西から)



RD015土坑
(南西から)



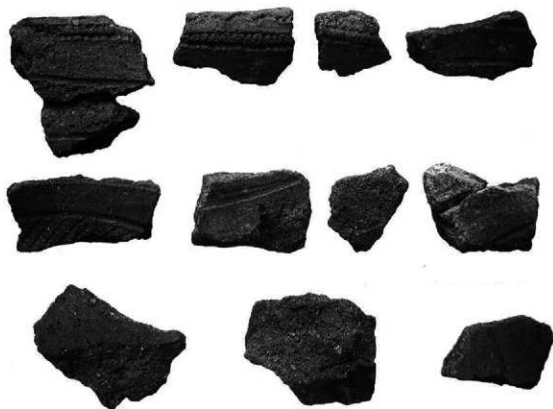
RD016土坑
(南西から)



RD017土坑
(南東から)



第8次・9次調査区
土層断面図



第8次・9次調査出
土遺物

報告書抄録

ふりがな	くろいしのだいらいせき							
書名	黒石野平遺跡							
副書名	宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編者名	鈴木 賢治、神原 雄一郎							
編集機関	盛岡市遺跡の学び館							
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1 電話 019-635-6600 Fax 019-635-6605							
発行年月日	2007年12月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺構番号		北緯	東緯	調査期間	調査面積	調査原因
黒石野平遺跡 第8次	岩手県盛岡市 緑が丘3丁目 20番56号	0321		39° 43' 83"	141° 08' 70"	平成19年 20071001 ～ 20071005	380㎡	宅地造成
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
黒石野平遺跡	8次	縄文時代中層～ 縄文時代晩期		土坑 (陥し穴状土坑)		縄文時代土器 (早期の只段文)		

黒石野平遺跡

—宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書—

2007年 12月12日 発行

編集 盛岡市遺跡の学び館 〒020-0866 盛岡市本宮字荒屋13番地1
TEL 019-635-6600

発行 株式会社 中央住宅産業 〒020-0012 盛岡市中央通2丁目10-20
TEL 019-622-1555

印刷 株式会社 杜陵印刷 〒020-0122 盛岡市みたけ2丁目22-50
TEL 019-641-8000